

令和8年3月第1回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問通告書

【木島平村議会議員 江田 宏子】

質問事項	質問要旨	答弁者
1. ファームス木島平のあり方について	<p>ファームス木島平の再整備については、財政負担への懸念などから慎重や反対の意見も多い。しかし、全国の道の駅の中には、住民の日常利用を重視したことで来場者増や地域活性化につながっている事例も見られる。</p> <p>実際、ファームスにおいても、屋外の子どもの遊び場整備以降、村内はもとより、周辺地域からもファミリー層の利用が増えている。また、食堂も定食メニュー導入以降、ビジネスマンや近隣住民の平日利用が増加している様子もうかがえる。さらに、イベント開催時には、村内外からの来場者で、非常に賑わっている。</p> <p>一方、ファームス再整備の動向にかかわらず、子育て世帯からは、真夏や冬期、悪天候時に利用できる室内の子どもの遊び場、また中高年層からは、健康づくりの場や気軽に立ち寄れる居場所、さらに村民が通いやすい公衆浴場など、日常的に利用できる交流拠点機能を求める声も聞かれる。すべての機能を取り入れるか否かは別として、こうした村民ニーズを踏まえ、かつ周辺住民の利用拡大による活性化を図るうえでは、ファームスを再整備する手法は有力な選択肢の一つと考える。</p> <p>人口減少や地域経済の縮小が進む中、有効な手立てを講じなければ、地域の活力低下が一層進むことが懸念される。また、仮に再整備を進める場合、規模縮小など中途半端な機能整備では十分な効果が得られず、将来的な負担のみが残る可能性もある。</p> <p>今後は、ファームスの場所や施設のあり方について「どのようにすれば地域の活性化につながるか」「どのようにすれば持続可能な村を維持できるか」「どのような機能があれば地域の方々が日常的に足を運ぶ施設になるか」といった観点から、幅広く可能性を検討し、ニーズを的確に捉えていく必要がある。そのうえで、単なる規模の議論ありきでなく、村民の満足度や周辺住民の利用実態も含めた費用対効果を多角的に考察し、村民ニーズを踏まえた将来像と具体的見通しを示していくことが重要である。また、村民の理解と納得を得ながら進めるためにも、整備の必要性と方向性について、丁寧な説明を重ねていくことが求められる。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 再整備構想は現在どのような状況で、今後どのような判断・プロセスで進めていく考えか。 ② ファームス木島平を日常的に村民が利用する拠点として位置づける構想について、見解と可能性は。 また、村民ニーズをどのように取り入れていく考えか。 ③ 人口減少が進む中、村の活力の維持、またはさらなる活性化に向け、ファームス再整備以外に検討している施策はあるか。 	村 長

令和8年3月第1回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問通告書

【木島平村議会議員 江田 宏子】

質問事項	質問要旨	答弁者
<p>2. 実践的な災害対応の備えについて</p>	<p>近年、全国的に地震・豪雨など災害の激甚化が見られる。住民の命と生活を守るためには、より実践的で住民に寄り添った体制・対応の充実と備えの強化が重要である。特に避難所運営や訓練内容について、季節条件や要配慮者への対応など、いざという時に迅速に機能する体制となっているかが問われている。本村の災害対応力の向上に向け、以下について村の考えを伺う。</p> <p>① 現行の避難訓練の内容と課題をどのように認識しているか。</p> <p>また、積雪期や荒天時、夜間等を想定した訓練など、あらゆる状況を想定した実践的訓練への見直しの考えはあるか。</p> <p>② 各集落における避難マニュアル（積雪期・荒天時・夜間等の住民避難対応を含む）について、村としての作成指示の状況および策定状況の把握はどのようにしているか。</p> <p>③ 避難所内のゾーニング、プライバシー確保策、ペット同行避難への対応、避難所運営体制の構築に向けた住民の誘導等、対応に当たる職員の理解度および研修の必要性をどのように認識し、今後、どのように向上させていく考えか。</p> <p>④ 寒さ・暑さ・夜間等を想定した避難所体験（宿泊型訓練を含む）の導入について、村の考えは。</p> <p>⑤ 原子力災害の避難計画は地域防災計画の中で策定されているが、「住民向け避難マニュアル」の策定状況と策定に向けた課題、今後の対応について伺う。</p>	<p>村長</p>

令和8年3月第1回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問通告書

【木島平村議会議員 江田 宏子】

質問事項	質問要旨	答弁者
<p>3. 移住促進に向けた住宅の確保について</p>	<p>人口減少対策として移住促進に力を入れているが、現在、移住希望の需要に対し、すぐに入居可能な物件が不足している状況が見受けられる。一方で、空き家は増加傾向にある。</p> <p>空き家は、放置すれば老朽化が進む一方、適切に活用できれば地域資源であり、移住の受け皿として重要な役割を果たす可能性がある。そこで、空き家等を活用した住宅の確保に向けた取組について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住希望者の住宅ニーズと受け皿の現状について <ol style="list-style-type: none"> ① 令和7年度の移住相談件数に対し、空き家バンク等を通じた移住者数は何件か。(購入・賃貸別に) ② 現在、移住者向けに提供可能な販売住宅および賃貸住宅の戸数はどの程度あると把握しているか。 ③ すぐに入居可能な住宅が不足していることにより、移住につながらなかった事例はどの程度あると考えられるか。 ・空き家の活用について <ol style="list-style-type: none"> ④ 現在、活用可能と見込まれる空き家はどの程度あると把握しているか。 ⑤ 空き家の解消と移住促進の観点から、今後、所有者に対し、どのような働きかけや支援を行っていく考えか。 ・民間事業者等との連携について <ol style="list-style-type: none"> ⑥ アパート誘致や空き家のリノベーション等について、官民連携により移住者向け住宅の確保を推進する考えはあるか。 ⑦ 移住促進の観点から、今後、賃貸住宅の確保に向けた具体的な取組をどのように考えるか。 	<p>村 長</p>
<p>4. 職員の主体性と意欲を高める組織運営について</p>	<p>住民サービスの質の向上と持続可能な村政運営のためには、職員一人ひとりが主体性と誇りを持ち、個々の力を発揮できる組織づくりが重要である。人材育成の現状と課題、また、職員の意欲と能力を引き出すための具体的な取組（現状）と、今後の施策を伺う。</p>	<p>村 長</p>